

雞肉情勢

2025/3/14 更新

全農チキンフーズ(株)

項目

1. 国内

2. 輸入

家計消費

量販・卸

業務・加工筋

令和7年1月

見通し

令和7年2月動向

見通し

内容

(1) 生産・処理動向調査((一社)日本食鳥協会令和7年2月末実施)によると、1月の推計実績は処理羽数61,207千羽(前年比100.6%)、処理重量185.3千ト(同100.2%)となった。処理羽数は前月時点の計画値103.3%より2.7%の下方修正、処理重量は同計画値102.1%より1.9%下方修正となった。1月は東北エリアを中心に脚弱や疾病が散見されていることから、同エリアにて前年から処理羽数を落としていた。

(2) 2月の土・日・祝日は前年と同数であるが大腸菌症等の発生により、計画処理羽数・処理重量ともに前年を下回る予想となっており、前月予想から処理重量ベースで0.3%下方修正となっている。

3月については、土・日・祝日が前年と同数であるが、3月処理羽数・処理重量ともに前年を下回る見通しだ。前月予想から処理重量ベースでは、ほとんど変わらない予想である。産地別に見ると千葉県で高病原性鳥インフルエンザが頻発したことから関東エリアの処理羽数が前年から落ち込む見通しだ。工場の人員不足については外国人技能実習生が都市部への就業に集中していることに加え、来日が遅れている産地が一部あるようだ。また、従業員の高齢化もあり人員確保が難しくなっているとの声も聞かれる。副産品(小肉・剣状軟骨など)や機械で加工することが難しい手羽中半割といった加工品の調整を行っている産地もあり、この傾向は暫く続く見通しだ。

(1) 財務省の貿易統計によると、令和7年1月の鶏肉(原料肉)の輸入量は前月から+2.4千トの52.3千ト、国別ではブラジルが前月+3.2千トの37.5千ト、タイが▲0.8千トの14.1千トとなった。(独)農畜産業振興機構(ALIC)による今後の見通しでは、輸入量は2月が45.9千ト(前年比82.9%)、3月は43.1千ト(同81.7%)となっている。食料品全般の値上がりや消費者の生活防衛意識の高まりなどから、比較的安価な輸入鶏肉の需要が増加することを見越し、積極的に在庫を抱えている業者もあるようだ。また、日本以外のアジアの国(主に中国と韓国)でも鶏肉の引き合いが強くなっており日本よりも高値で鶏肉を輸入していることから主要輸出国であるブラジル・タイ産の鶏肉輸入量は前年同期をかなり大きく下回ると予想する。ただし、不透明な為替動向では状況が変化する可能性はある。

(2) 鶏肉調整品の輸入量は、前月から▲7千トの38.6千トで国別では中国が▲1.0千ト、タイが+0.3千トとなった。前年同月実績35.7千トとの差は+2.9千トとなり、前年比では上回る結果となった。国内の働き手不足やコロナ禍が明けた影響による外食筋の回復、共働き世帯の増加に伴い中食・総菜向け等の引き合いも継続している。冷食関係でも輸入鶏肉を使用したメニューが増えており、令和7年度は鶏肉調整品自体の需要も前年より高い水準になると予想される。

(3) 株式会社食品産業新聞社発行の畜産日報によると、1月の輸入鶏肉(モモ肉)の価格はブラジル産で380円/kgから400円/kg(前年加重価格390円/kg)、タイ産が450円/kg(同430円/kg)となっている。為替が円安に推移し続けている影響や中東だけでなくアジア圏の国々から需要が増加傾向にあることによって価格が上昇したと予測する。生産国の自国消費も増加しているため、急激な価格の下落は暫く無いのではないだろうか。

(1) 総務省統計局発表の家計調査報告(全国・二人以上の世帯1世帯あたり)によると、令和7年1月の生鮮肉消費(購入)は数量4,203g(前年比94.4%)・金額6,730円(同102.4%)と、重量は前年を下回り、金額は前年を上回った。鶏肉は数量1,563g(同104.1%)・金額1,650円(同102.6%)・単価105.6円/100g(前年同月▲1.5円)と、数量・金額は前年を上回ったものの、単価は前年を下回った。鶏肉は前年と比べて購入数量と購入金額は前年を上回ったが、牛肉と豚肉の購入数量は前年を下回る結果となった。牛肉は輸出や為替の影響で価格が高騰したことから数量と金額が減少したと予測する。2025年1月16日発行の日本経済新聞によると、豚肉も為替による高値基調によって需要家からの積極的な引き合いが乏しくなった。調理食品は共働き世帯の増加に伴う需要は底堅いようだ。外食においては、ほぼコロナ禍前の水準程度まで回復したものの、統計外となるインバウンドによる集客もあることからエリア・業態によって濃淡があるようだ。

(1) 一般社団法人全国スーパーマーケット協会の販売統計調査によると、令和7年1月の食品売上高は全店ベースで前年比105.2%と前年を上回った。生鮮3部門の売上高は全店ベースで同105.4%、既存店ベースは同104.0%となった。また、畜産部門の売上高は約1,240億円で全店ベース同101.7%、既存店ベース同100.3%となった。同社が取りまとめたスーパーマーケット景気動向調査によると「引き続き牛肉や輸入肉の相場高が継続し、なかでも輸入品の価格高騰が続き、不調となった。牛肉は、成人式などハレの日前後にブランド牛が動いた店舗もみられたが、それ以外では価格を抑えた切り落としや小間切れなどが販売の中心となった。豚肉は、スライスやしゃぶしゃぶ用に回復傾向がみられたが、国産豚の価格上昇もあり伸び悩んだ。鍋関連は水産へのシフトを指摘するコメントも。鶏肉は鍋需要の受け皿となったが、鳥インフルエンザによる国産価格の上昇により好不調の判断がわかれた。」とコメントがあった。前月に引き続き消費者の節約志向は高いようだ。

(1) 日本ハム・ソーセイジ工業協同組合調べによると令和7年1月度の鶏肉加工品仕向肉量は、前年比100.2%の4.1千トとなった。うち国内品は同103.1%の3.4千トと前年を上回り、輸入品については同89.1%の0.8千トと前年を下回った。

(1) (独)農畜産業振興機構(ALIC)の1月末時点推定期末在庫では国産26.3千ト(前年比84.3%・前月差▲3.3千ト)、輸入品139.2千ト(同110.5%・同+4.3千ト)と合計で165.4千ト(同105.3%・同▲4.9千ト)となった。

(1) (独)農畜産業振興機構(ALIC)が発表した鶏肉需給表では、1月の出回り量は国産142.4千ト(前年比99.9%・前月差▲13.2千ト)、輸入品48.1千ト(同108.1%・同▲6.2千ト)と合計で190.5千ト(同101.9%・同▲19.4千ト)となった。前月からは国産・輸入ともに減少している。前年と比べて国内の生産処理重量はほぼ並みであり、輸入品の出回り量が増加していることから需給は締まっていたと考える。1月は特に前月に比べて生産処理重量が減少していることから不足感が強い1ヶ月だった。1月以降の国産品在庫については生産不調によって生産量が需要に対して不足し、減少していくと予想する。輸入品については価格が高騰していることから在庫はあまり減少しないと予測する。在庫は昨年と比較すると増加傾向にあるものの、消費者の節約志向や外食筋・加工筋による引き合いがあり、国内の生産状況も全国的に不調気味のため急増することはないと見られる。

(1) 令和7年2月の月平均相場は、モモ肉744円/kg(前月差▲1円)・ムネ肉395円/kg(同▲8円)正肉合計で1,139円/2kgと前月より9円下回ったが、前年同月を88円上回った。モモ肉相場は月初745円、月末は749円となり(昨年は月初693円、月末673円)、前年の相場を大きく上回った。生産においては一部産地で脚弱・大腸菌症の発生や寒波の影響による増体不良により出荷調整が発生し、全国的に不調であった。しかし、需要に対して供給量が少なく、相場は伸長したと考える。販売については前述の通り需要に対して供給が追いついていないこともあり、積極的に特売が打てる状況ではなかったようだ。

(1) 3月の生産量は生産・処理動向調査によると処理羽数・処理重量が前年を僅かに下回る見込みとなっている。また、全国的に高病原性鳥インフルエンザが多発していることに加え、全国的に大腸菌症等の鶏病が目立つ。高病原性鳥インフルエンザの影響を抜きにしても出荷調整を行っている産地が散見されることから集荷が難しい場面が発生している。量販店では牛肉→豚肉→鶏肉のシフトが続いており、これは消費者の節約志向の高まりだと考える。野菜全般の高騰により鍋物関係の商材の動きが鈍くなることが懸念される。今後も消費者の生活防衛意識の高まりから安価な商品へ需要が集中するだろう。輸入鶏肉については過去5ヶ月(9-1月)の国内の在庫量が前年よりも増加傾向にあり、輸入鶏肉の価格上昇にともない需要が輸入から国産にシフトしているのではないかと考える。3月のモモ肉相場は月平均735円、ムネ肉相場は月平均390円と予測する。

(2) 3月上旬現時点では養鶏場・家さん農場における高病原性鳥インフルエンザは51例発生している。肉用鶏(肉用あひる含む)は10例(約66.6万羽)、採卵鶏(ウズラ含む)は41例(約867.9万羽)発生している。2023年シーズン1例目は11月25日(土)佐賀県鹿島市、2022年シーズン1例目は10月28日(金)岡山県倉敷市、2021年シーズン1例目は11月10日(水)秋田県横手市で発生しており、例年よりも早く発生した。全国的に寒波の影響で生産に調整がかかっている状況である。

実績

生産状況

輸入動向

鶏肉の消費動向

在庫状況(推定)

出回り量(推定)

相場(月別)

単位:千羽、千トン、%

	R6年累計(推計)		R7年1月実績		R7年2月計画		R7年3月計画		R7年4月計画	
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比
入雛羽数	791,537	101.1%	67,468	99.1%	58,861	93.4%	63,462	98.3%	64,096	98.0%
処理羽数	750,759	100.9%	61,207	100.6%	58,144	95.9%	64,417	99.8%	63,272	98.8%
処理重量	2,273.2	101.5%	185.3	100.2%	175.9	95.4%	194.4	98.9%	192.4	97.7%

※参考資料: (株)全国食鳥新聞社発行「PMN」

単位:千トン、%

品名	鶏肉			調製品			合計			比率	
履歴	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	鶏肉	調製品
R5年累計	584.9	574.5	101.8	478.0	525.8	90.9	1,062.9	1,100.3	96.6	55.0	45.0
R6年累計	639.2	584.9	109.3	503.2	478.0	105.3	1,142.4	1,062.9	107.5	56.0	44.0
R6年9月	49.1	48.4	101.6	39.9	40.8	97.7	89.0	89.2	99.8	55.2	44.8
R6年10月	62.3	47.8	130.4	47.9	44.4	107.9	110.2	92.2	119.6	56.5	43.5
R6年11月	52.0	39.2	132.6	46.2	46.6	99.1	98.2	85.8	114.4	52.9	47.1
R6年12月	49.9	51.0	97.9	45.6	44.3	102.9	95.5	95.3	100.3	52.3	47.7
R7年1月	52.3	54.7	95.6	38.6	35.7	108.2	90.9	90.4	100.6	57.5	42.5

※参考資料: (独)農畜産業振興機構「鶏肉需給表」

単位:グラム、円、%

相場(年別・暦年)

履歴	数量			金額			モモ肉	ムネ肉	計	
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比				
R5年平均	1,495	1,510	99.0	1,547	1,448	106.8	H29年	626	315	941
R6年平均	1,552	1,495	103.8	1,586	1,547	102.5	H30年	595	282	877
R6年9月	1,526	1,424	107.2	1,467	1,487	98.7	R元年	585	243	828
R6年10月	1,584	1,502	105.5	1,595	1,587	100.5	R2年	614	269	883
R6年11月	1,586	1,508	105.2	1,629	1,569	103.8	R3年	641	313	954
R6年12月	1,801	1,885	95.5	1,993	1,950	102.2	R4年	662	348	1,010
R7年1月	1,563	1,501	104.1	1,650	1,608	102.6	R5年	730	395	1,125

※参考資料: 総務省統計局HP 家計調査報告(全国・二人以上の世帯1世帯あたり)

単位:千トン、%

履歴	国産			輸入品			合計		
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R6年9月	33.2	30.0	110.3	136.5	132.5	103.0	169.7	162.5	104.4
R6年10月	32.2	29.8	108.2	141.1	130.9	107.8	173.3	160.7	107.9
R6年11月	30.8	30.9	99.7	139.3	120.0	116.1	170.1	150.8	112.8
R6年12月	29.6	33.6	88.1	134.9	115.7	116.7	164.5	149.2	110.2
R7年1月	26.3	31.2	84.3	139.2	125.9	110.5	165.4	157.0	105.3

※参考資料: (独)農畜産業振興機構「鶏肉需給表」

単位:千トン、%

履歴	国産			輸入品			合計		
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R5年累計	1,689.0	1,683.1	100.4	606.3	563.3	107.6	2,295.4	2,246.5	102.2
R6年累計	1,721.2	1,689.0	101.9	619.9	606.3	102.2	2,341.1	2,295.4	102.0
R6年9月	137.9	137.7	100.1	50.5	49.2	102.7	188.4	187.0	100.8
R6年10月	148.6	145.8	101.9	57.7	49.4	116.9	206.4	195.2	105.7
R6年11月	145.7	145.7	100.0	53.8	50.1	107.2	199.4	195.8	101.8
R6年12月	155.6	152.7	101.9	54.3	55.3	98.3	209.9	208.0	100.9
R7年1月	142.4	142.5	99.9	48.1	44.5	108.1	190.5	187.0	101.9

※参考資料: (独)農畜産業振興機構「鶏肉需給表」

単位:円、%

品名	モモ肉			ムネ肉			正肉合計		
履歴	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R5年度平均	700	702	99.7	384	371	103.5	1,084	1,073	101.0
R5年平均	730	662	110.3	395	348	113.5	1,125	1,010	111.4
R6年平均	655	730	89.7	369	395	93.4	1,024	1,125	91.0
R6年11月	690	673	102.5	392	374	104.8	1,082	1,047	103.3
R6年12月	730	691	105.6	404	377	107.2	1,134	1,068	106.2
R7年1月	745	701	106.3	403	377	106.9	1,148	1,078	106.5
R7年2月	744	682	109.1	395	369	107.0	1,139	1,051	108.4
R7年3月	(735)	661	111.2	(390)	364	107.1	(1,125)	1,025	109.8
R7年4月	(720)	639	112.7	(390)	364	107.1	(1,110)	1,003	110.7

※()は見通し